

「徳島県学びの多様化学校の在り方等に関する基本方針」について

1 目的

不登校児童生徒が適切な支援を受け、学びたいと思った時に学べる環境を整備する。

2 目指すべき姿

- (1) 個々の児童生徒の状況やニーズに応じた、多様な学びの場が確保される。
- (2) 児童生徒の居住地によらず、個別最適な学びや必要な支援が提供される。
- (3) 不登校支援に関する専門的知見や豊富な実践経験に基づいた支援が行われる。

3 県と鳴門教育大学との連携による推進体制の構築

- (1) 鳴門教育大学が長年に渡って蓄積した豊富な実践経験や研究成果を生かす。
- (2) 県と鳴門教育大学が、緊密に連携を図りながら、先導的役割を果たす。
- (3) 県と鳴門教育大学が、各地域における多様な学びの場の設置や運営を支援する。

4 具体的な取組

- (1) 「県立学校」の設置
 - ・ 鳴門教育大学敷地内に県立学校を先行的に設置し、今後、県内全域に学びの多様化学校を推進していくための「ロールモデル」としての役割を担う。
 - ・ 令和 9 年度開校を目指す。
 - ・ 中学生を対象とし、受入れ可能人数は、60 名（1 学年 20 名）程度を想定する。
 - ・ 鳴門教育大学の支援を得て不登校児童生徒の学びに有効な特別な教育課程を開発・実践する。
 - ・ 鳴門教育大学は、学校運営に必要な専門的支援を行う。
- (2) 県立学校による「センター機能」の発揮
 - ・ 学びの多様化学校で実践される教育課程や支援方法、学校の運営ノウハウ等を各市町村教育委員会や教育支援センター等に提供する。
 - ・ 児童生徒の学習支援等を行う新たな居場所を徳島駅周辺に設置するとともに、学びの多様化学校に関連した情報発信等を行う。
 - ・ 県内の教育支援センター等と連携し、「サテライト機能」を有した学びの場等の設置に向けた研究に取り組む。
 - ・ 各市町村において不登校支援のリーダーとなる教職員を養成する。
- (3) 市町村立学校の設置促進等
 - ・ 全ての児童生徒が居住地によらず必要な学びを受けることができるよう、県内各地における市町村立の学びの多様化学校の設置を促進する。
 - ・ 県と鳴門教育大学は、各市町村における多様な学びの場の確保に向けた主体的な取組を積極的に支援する。

徳島県学びの多様化学校の在り方検討会議の概要について

本県における「学びの多様化学校」の在り方について、多角的に検討するため、次のとおり「徳島県学びの多様化学校の在り方検討会議」を開催し、基本方針案をとりまとめた。

1 検討事項

- (1) 本県における「学びの多様化学校」の設置場所や校種等に関する事項
- (2) その他本県における「学びの多様化学校」の在り方に関連して検討が必要な事項

2 検討会議委員

- (1) 委員数 11名
- (2) 委員構成 学校関係者、心理・福祉の専門家、民間団体代表者等

3 開催日

- (令和7年度4回程度開催予定)
- ・第1回検討会議 令和7年6月30日(月)
- ・第2回検討会議 令和7年7月22日(火)
- ・第3回検討会議 令和7年8月21日(木)

4 各委員からの主な意見

- 鳴門教育大学の心理教育相談室と連携ができれば、家庭も含めて心のケアができる。スーパーバイザーの後ろ盾があることも教職員にとっても心強い。
- 本来は市町村がつくるべきと思うが、県がリーダーとなり鳴教大につくることで、将来的には市町村に波及し、地域に応じた「学びの多様化学校」ができてほしい。
- 地理的課題はあるが、コンテンツや施設、知見を活かした、質の高い教育を提供されることは魅力的である。
- アンケート結果から「学びの多様化学校」へのニーズは高いように思う。早期に設置することが必要である。
- 鳴門教育大学に設置することにより、教職員の指導力の向上につながり、その教員が、県内の各学校に配置されることで不登校を生まない環境づくりや児童生徒支援が強化される。
- 毎日通えないときにオンライン等での学習ができればよい。また、教育支援センター等に鳴門教育大学での授業を配信してくれると学びの充実につながる。
- 現在、不登校状況にある児童生徒の支援を充実させることも必要。アクセスのよいところに学びの場や居場所が必要ではないか。

5 今後の予定

- ・第4回検討会議 令和7年12月 スクールビジョンや教育課程について

学びの多様化学校に関するアンケート結果（概要）について

1 実施内容

(1) 目的

「学びの多様化学校」の必要性等についてWebアンケートを実施し、今後の施策の参考とする。

(2) 対象者

県内公立小中学校に在籍する小学校5年生から中学校3年生までの児童生徒（約27,000名）とその保護者

(3) 回答期間

令和7年7月8日（火）から令和7年8月5日（火）まで

(4) 回答方法

Webアンケート（無記名）

2 概要

(1) 回答者数

ア 児童生徒11,212名（回答率42.2%）

（ア）「ほぼ毎日」登校している 10,956名

（イ）「週に3～4日」、「週に1～2日」及び「月に数日」登校している並びに「行っていない」（以下、「不登校・不登校傾向」）256名

イ 保護者 3,953名

（ア）「ほぼ毎日」登校している 3,708名

（イ）「不登校・不登校傾向」245名

(2) 「不登校・不登校傾向」の児童生徒・保護者の回答

ア 新しくできる「学びの多様化学校」にどんなことを期待するか（上位3項目）

（ア）児童生徒

自分の好きなことを自分のペースで学べること	21.6%
友達と協力しながら学べる時間があること	16.1%
学校に行く元気がないときにオンライン学習等で学べること	11.8%

（イ）保護者

自分の好きなことを自分のペースで学べること	15.5%
学校に行く元気がないときにオンライン学習等で学べること	14.3%
これまでの学習内容の取りもどしができること	13.6%

イ 徳島県に「学びの多様化学校」ができれば通ってみたいと思うか

	（ア）児童生徒	（イ）保護者
とても思う	23.0%	20.0%
思う	29.7%	30.2%
あまり思わない	16.8%	15.1%
思わない	8.6%	13.1%
わからない	21.9%	21.6%

ウ 徳島県には何校あればよいと思うか（保護者のみ）

1校	1.2%
4校（県東部・県西部・県北部・県南部）	21.6%
24校（県内24市町村に1校ずつ※文部科学省方針）	71.4%
その他	5.7%